令和5年度　学校評価

加古川市立別府中学校

学校教育目標　「一人一人を大切にし　共に生きる心と力を育てる」
めざす学校像　「みんなの瞳　輝く　学校」
～挨拶・協力・感謝の実践化を通して～

＜重点目標＞
①知・徳・体をバランスよく育て、「自ら生きる力」を育む
②基礎的基本的な学力の定着をはかり、主体的に学び、考え表現する力を育てる
③生徒の主体的な活動の活性化をはかり、「共に生きる心と力」を育む
④いのちを大切にし、人権を尊重する教育を推進する
⑤一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う
⑥危機管理意識を高め、安全・安心な学校を創造する
⑦教職員としての指導力と資質向上に努め、よりよい組織形成をめざす
⑧地域から信頼される教育の環境づくりに取り組む

〇評価基準
4：よい
3：ややよい
2：やや悪い
1：悪い

評価指数とは　（4×4の人数）+（3×3の人数）+（2×2の人数）+（1×1の人数）/合計人数　　評価指数の平均値は2.5　平均3.5以上で〇、2.5未満で△として表示

領域		質問項目（学校の自己評価アンケート）	評価指数	R5	R4	R3		質問項目（保護者･生徒アンケート）	評価指数	R5	R4	R3	改善の方策（今年度）	関係者評価
学校生活全般	1	生徒のあいさつ		2.9	2.9	3.4	生	地域や学校で進んであいさつができた。		3.4	3.4	3.5	〇「生徒のあいさつはできているか」の問いに対して教師、生徒、保護者とも評価は低い。修学旅行やスキー実習に行き多くの方からやられた挨拶ではなく、自然な良いあいさつができていると言われていた。 〇「お子さんは家庭の中で協力的か」という問いに関して毎年ポイントが下がってきている。 〇コロナ禍で中止や縮小した行事はある程度復活してきているが、以前のように心の底から感動する行事は行えていない。感動の演出を大切にしていきたい。 〇学校・家庭・地域が一体となり生徒の承認欲求を大人が叶える仕組をつくり、自己肯定感の醸成を図りたい。	〇学校に来ることができない、来づらい生徒に対しては、医療との連携も大切ではないか。 〇発達の課題がある子どもに対しては早い段階で関係機関や医療との連携を図り、できる支援を十分に把握して対応をすべき。
	2						保	自分から進んであいさつをしている。		3.1	3.1	3.2		
	3	生徒の協力性		3.1	3.1	3.3	生	係や班活動、行事などで級友と協力して取り組んだ	〇	3.5	3.5	3.6		
	4						保	家庭の中で協力的	△	2.9	3.0	3.1		
	5	まわりへの感謝					生	周りの人に感謝している	〇	3.6	3.6	3.7		
	6	学校生活での充実度		3.2	3.2	3.3	生	学校生活は充実している		3.4	3.4	3.5		
	7						保	学校生活に充実感・満足感をもっている		3.0	3.1	3.2		
	8						保	学校は子どもが学習するのに適した環境である。		3.0	3.0	3.2		
学習（学力向上）	9	学習規律		3.2	2.9	3.5	生	ベルスタはできた		3.2	3.3	3.3	〇「授業はわかりやすいか」の問いに対しては評価が過去最高の得点となっている。これは、教師の授業力向上の数値だけでなく、早朝からの教師の個別の学習支援やノー部活デーに居残りの補習を行っている結果の表れでもある。 〇家庭学習に対する時間が毎年減少しているのは気がかりな点である。 〇日常的に「自ら思考・判断・表現する力」を生徒につけさせたいとの願いから、さらに全教職員で取り組んでいきたい。 〇タブレット等のICT機器を生徒が有効に活用できるよう一層推進していきたい。	〇ドリルパークやスタディ サプリ等の活用でICTの活用を推進してほしい。 〇タブレットを全員持ち帰りで家庭学習や宿題提出等で利用しているようであるが制限をかけているにもかかわらずYoutubeやよくない使い方をしていることへの制限が必要であろう。 〇タブレットを使った学習も良いが、学校だからこそできるコミュニケーションを大切にした人とかかわる力を育成してほしい。 〇塾の時間を家庭学習とするのならばもっと多いのではないだろうか。 〇多くの生徒が学習塾や文化、スポーツの習い事に行っているのではないだろうか。学校は実態を把握してもよいのではないか。
	10						生	準備物・宿題・提出物		3.0	3.0	2.5		
	11	基礎的な知識技能、学力の定着		2.8	2.8	2.9	生	授業はわかりやすかったか	〇	3.2	3.1	3.1		
	12													
	13	思考力・判断力・表現力		2.7	2.6	2.7								
	14	ことばの力		2.7	2.7	2.8								
	15	家庭学習		2.6	2.6	3.0	生	家庭での学習時間は3時間以上4点30分以下1点	△	2.3	2.4	2.5		
	16						保	家庭学習の習慣が身についている		2.6	2.8	2.9		
	17	教師の授業力向上		2.9	2.8	2.9								
	18	個に応じた教育的支援		3.0	3.1	3.0	保	学習の様子や努力を適切に評価している		3.0	3.0	3.0		
人権・道徳	19	生徒の道徳性を養う		3.0	2.9	3.0	生	思いやりの心をもち、人を大切にしている	〇	3.6	3.7	3.7	〇生徒の同和教育への知識理解度に関して、過去最低ポイントとなっている。 〇コロナ禍におけるみかしお学級生の参加人数の現象が大きな課題であり、地域の方々との綿密な打ち合わせと計画を行い、回復を図っているところである。 〇地域の方からの生徒の親切な行為に対するお礼や賞賛の言葉が多く聞けた。生徒の思いやりの心が行動化されているうれしい評価である。	〇今年度みかしお学級生以外にも募集をして、肉まんづくりをしていただいた。みかしお学級生だけでなく別府町に住む生徒が人権について考える素晴らしい場である。今後も対象の地域の生徒だけでなくみんなで一緒に学びあう場であってほしい。 〇みかしお学級で学んだ生徒たちが障害を持つ子どもたちに親切に優しくかかわる姿を数多く見てきた。こんな素晴らしい教育をしている中にわが子も参加させたいと思う。
	20						保	思いやりの心をもち、人を大切にしている		3.3	3.4	3.4		
	21	生徒の同和教育への知識理解度		2.5	2.7	2.7								
	22	人権・道徳の授業力		2.8	2.8	2.9								
	23	計画からの実施状況		2.9	3.0	3.1								
	24	みかしお学級での活動	△	2.3	2.8	2.0								
特別活動	25	行事、生徒会活動		3.3	3.4	3.6	生	委員、係の活動に積極的に取り組んだ		3.4	3.4	3.4	〇コロナ禍で特別活動の制限を余儀なくされているが、生徒の主体性を活かした活動ができるように今後も取り組んでいく。	〇夏日が多くなっており、最近の異常気象を考えるとクリーン作戦や体育大会などの学校行事の開催も難しくなっている。開催時期を臨機応変に考えて良いと思う。
	26	部活動を通しての成長		3.2	3.1	3.2								
生徒指導	27	生徒の服装・頭髪の乱れ	★	3.1	3.2	3.7							〇多くの生徒はルールを守り、規範意識も高い。頭髪の自由化や校則の見直しを行った。結果として教師の評価は乱れとして評価されている。校則の共通理解を教師間及び生徒間で行う。 〇社会に流されての自由化ではなく、生徒自らが社会通念を踏まえて理由を考えた校則を考えていく体制づくりを行わなければ学校生活の乱れにつながると感じている。 〇生徒は人に認められる経験を通して心の成長がある。地域・保護者と共に、生徒の自己肯定感を高める取組を行う。	〇ジェンダーレスに配慮した制服を、2、3年生が購入することに関して、賛成である。ポロシャツや制服がジェンダーレスや兄弟姉妹共用であるのでありがたい。 〇不登校生でも少しずつホットルームに来れたり、教室に入れるようになっている生徒がいる。更なる支援をお願いしたい。 〇不登校生で家庭訪問をしても会えない現状は学校だけの課題でないと思われる。他機関連携をする必要がある。 〇今後の学校でのルール作りに生徒の意見を取り入れすべての子どもと共有しながら引き続いて取り組んでほしい。
	28	生徒の服装・頭髪以外の生活ルール		3.1	3.0	3.3	生	ルールを守って生活した	〇	3.6	3.7	3.7		
							保	ルールを守って生活した		3.1				
	29	生徒指導力の向上		2.9	2.8	2.9								
	30	教師間の共通理解や指導の方向性		3.1	3.0	3.2								
	31	学年間の連携		2.8	2.8	3.1								
家庭・地域との連携	32	PTA、地域、ユニットなどの取り組み		2.9	3.2	3.1	保	現状や取り組みを、便りやﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞなどでわかりやすく伝えている。		3.0	3.1	3.2	〇コロナ感染症の5類への移行はあるもののインフルエンザの流行が止まらずに、今年度は校区一斉清掃を中止した。また、ふるさとまつりもテスト期間中と重なり、地域貢献が一部の教員や生徒にとどまってしまった。 〇家庭連絡は迅速さ丁寧さを大切にしている。指導すべき事案だけでなく生徒の良い面を感じたら家庭連絡をする。 〇地域の中の学校として今後も一層いろいろな場面で地域貢献を行う。	〇日頃から、生徒の良いところを認め、自己肯定感の醸成に努めていただいている。今後も生徒が生き生きとした生活が送れるよう、学校と家庭が連携して取り組んでほしい。 〇地域で生徒たちの善行を受け止め、学校で善行賞表彰をしていただいている。今後も地域で、生徒の良いところがあればその場で認め、学校にも伝えていきたいと思う。
	33						保	学校をよく知ってもらうために、参観できる機会を適切に設けている。		3.2	3.2	2.9		
	34						保	学校行事にできるだけ参加している		3.3	3.5	3.5		
	35						保	子どものことについて、気軽に相談することができる。		2.9	3.0	3.0		
	36						保	地域や保護者の意見に丁寧に対応している		3.1	3.0	3.1		
学校運営	37	学校目標の明確さ		3.3	3.3	3.3							〇自他を大切にし毎日の生活が楽しいと思える生活が送れるために、生徒の自己有用感の醸成を目指している。学校目標を中心に、各教師の自己目標を作成している。 〇学校づくりの力点は相手を尊重し、互いの信頼関係の構築である。まずは教師間の信頼関係が大切であり、それが生徒や保護者からの信頼関係の基本であると考える。 〇業務改善・勤務時間の適正化等の推進状況では推進できていると感じている。 〇勤務時間外の部活動、生徒指導対応、保護者との連携に時間を費やしている。	〇別府中学校は以前から「自他を大切にする心豊かな生徒の育成」「人権尊重の精神を根底として共に生きる力の育成」が学校教育目標のなかに脈々と受け継がれている。これからも一人一人を大切にし子どもを中心に考えた学校教育を家庭・地域と共に推進していきたい。 〇学校として困っていることがあれば、学校運営協議会としても学校と一緒に考えて子どものために、より良い方向に向かうよう、方法を考えていきたい。
	38	学校としての組織的な活動		3.2	3.2	3.3								
	39	勤務時間の適正化・業務改善		2.7	2.6	2.9								
	40	設備施設の改善		2.8	2.7	2.9								
	41	報告連絡相談などの連携体制		3.2	3.1	3.2								
	42	危機管理対応		2.9	2.9	3.1								
	43	研修の充実度		3.1	3.2	3.1								